

台湾での火災…… - 西日本防災システム

2013 01 15

台湾 1月15日午後7時頃、新竹県新埔鎮のマンションで火災が発生し、5階に住む62歳の男性が死亡しました。避難経路を塞がれた男性は5階の非常扉を開けて救助を待っていましたが、到着した消防車のはしごは4階部分までの長さしかなく、救助マットも使えない状況だったため救助が遅れ、男性は見守る人々の目の前で焼死してしまったそうです。

台湾紙、聯合新聞網が報じたところによりますと、現場からもっとも近い消防署は700メートルの距離にありましたが、火災のあったマンションは狭い路地で路上駐車が多かったために消防車の到着が20分遅れたそうです。消防隊は火災現場に進出し救出を試みましたが、ガス爆発による建物の崩壊で行く手を阻まれ、男性のいる非常扉に到達したときにはすでに死亡していたといいます。

火災現場を見守っていた人々からは「非常扉が開いて男性の姿も見えていたのに、助けられないとは！」と、臨機応変な救出活動が行われなかったことへの批判が相次いでいるそうです。これを受けて新竹県県長は16日、遺族を慰問し遺憾の意を示すとともに、消防局に対し消防組織の応急対応力を強化していくよう要求したそうです。

また警察によりますと、火災の原因は亡くなった男性の息子(32歳)による放火だったようです。息子の供述では、父親が月々の給料の一部を銀行の口座に入金しておいてくれるというので渡していたが、最近になって入金されていないことに気付き口論になったようです。腹を立てた息子は、下に停めてあったバイクからガソリンを抜き取り、家のリビングにまいて火を放ったそうです。「脅かすつもりだった。こんなことになるとは思っていなかった」と話しているそうです。息子は昨年3月から**双極性障害**を患い、薬を継続的に服用していたということです。

双極性障害 : そう(躁)とうつ(鬱)が交互に現われる精神疾患。双極性気分障害ともいいます。以前はそううつ病とよばれていました。うつ状態のみが現れるうつ病とは区別されています。

救助の手がもう目の前まで来ていたのに…… ご冥福をお祈りいたします。



西日本防災システム
NISHINIHON BOHSAI SYSTEM Co., Ltd
<http://www.nbs119.co.jp/>



弊社top pageへ 